

	奈良女子大学 学際分野
学部等の教育研究 組織の名称	生活環境学部（第1年次：140名） 人間文化研究科（M：180名、D：50名）
沿 革	<p>明治 41（1908）年 奈良女子高等師範学校設置</p> <p>昭和 24（1949）年 奈良女子大学理家政学部設置</p> <p>昭和 28（1953）年 理家政学部を分離し、家政学部、理学部を設置</p> <p>昭和 39（1964）年 家政学研究科（修士課程）設置</p> <p>昭和 56（1981）年 人間文化研究科（博士後期課程）設置</p> <p>平成 5（1993）年 家政学部を改組し、生活環境学部を設置</p> <p>平成 10（1998）年 家政学研究科を改組し、人間文化研究科（博士前期課程）を設置</p>
設 置 目 的 等	<p>昭和 24（1949）年に、理家政学部が設置された。</p> <p>昭和 28（1953）年に、専門性の基盤拡大強化を目的として、理家政学部を分離し、理学部と家政学部が設置された。</p> <p>昭和 39（1964）年に、広い視野に立って精深な学識を授け専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的として、家政学研究科修士課程が設置された。</p> <p>昭和 56（1981）年に、後期3年の課程のみの独立研究科として、人間文化の所産である環境と人間との関わりを学際的に教育・研究することを目的とする生活環境学専攻を有する人間文化研究科が設置された。</p> <p>平成 5（1993）年、社会構造の変貌に伴う人間生活をめぐる諸問題に対応するため、家政学部を改組し、生活環境学部が設置された。</p> <p>平成 10（1998）年、専門性に基づいた学問系統を維持しながら諸科学を再編・統合して相互の連携を充実強化することにより、専門性に加えて幅広い視野と豊かな人間性を持った優れた人材を養成することを目的として、家政学研究科を改組し、人間文化研究科博士前期課程が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>【総論】</p> <p>奈良女子大学における学際分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における生活環境学分野の普遍的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。</p> <p>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究</p>

組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。

【教育】

(学部)

- 生活の根幹である衣・食・住や家族の環境など、生活を取り巻く様々な生活環境を対象とする教育研究を通じて、生活診断力や生活改善力に優れ、生活者の視点で社会をリードできる能力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。
- このため、FD 推進室を設置し、学生へのアンケートの実施、各教員へのフィードバックを行いつつ、カリキュラム・ポリシーに対応させた授業科目を設定するなどを実施している。
- これらの取組を通じて、大学院への進学率が全国平均より高く、管理栄養士の国家試験において9割以上の合格率を維持している。
- 今後、生活に関する情報化の進展に伴い求められている、衣服そのものをコンピュータ化するウェアラブル技術教育など生活科学に関するフロンティア教育に取り組むとともに、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ、体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等により、学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

- 生活環境学分野の女性研究者、教育者及び社会で活躍する女性リーダーたるべき能力を身につけ、生活にかかわる多様な問題に対応できる高度な専門性と研究能力を有する人材を養成する。
- このため、実践的な語学力の養成や研究プロジェクトの企画など高度専門職業人養成のための実践科目を取り入れている。
- 今後、国際的な視野に立った女性の高等教育、及び男女共同参画社会の推進に取り組む等、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制の充実・強化を通じ、大学院における当該分野の強み・特色を明確にする。
また、中国、韓国、台湾等アジア諸国からの留学生受入れの実績を基盤に、さらなる連携の拡充を通じて生活環境学分野の教育の国際通用性を確保する。

【研究】

- 生活環境学分野における研究実績をいかし、衣食住を基盤とした健康と文化に関する研究、特に、機能的な被服に関する研究等を行っている。
- これらの取組を通じて、生活に関する研究実績が注目され招待講演数が増加している。また、日本建築学会賞、繊維学会賞など研究成果に対

し生活環境学に関する学会賞を受賞している。

- 今後、地球温暖化、自然災害、高齢化など生活に大きく影響する課題への取り組みを行う等、総合的な研究を組織的に推進するとともに、我が国社会の課題解決・衣食住を基盤とした健康と文化の発展に貢献することを目指す。

【その他】

- アジア諸国（中国、韓国、台湾、内モンゴル自治区、アフガニスタン、インドネシア）との共同研究や留学生受け入れ等の実績を基盤にして、アジアを中心として女性のグローバル・リーダーの育成を推進する。
- 近年、「生活健康」及び「衣環境」への社会的ニーズの拡大に応じるため、学内の組織を集約させ、「生活健康」を「心と体の健康フロンティア」、「衣環境」を「情報技術を基盤とした衣環境のフロンティア」拠点に整備することを目的として、平成 26 年度から学部の改組に取り組む。引き続き全学的な機能強化を図る観点から、18 歳人口の動態や社会と産業界のニーズに基づき学部の教育課程及び組織のあり方、規模等の不断の見直しに取り組み、大学院については、教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。